令和 7 年 7 月 10 日

【報道提供資料】
PRESS　RELEASE

泉南市
SENNAN CITY

漂着アオサ等のアップサイクルに向けた共同研究を開始
～泉南市×神戸大学×光オンデマンドケミカル×ヴァイオスが連携、池田泉州銀行も調整役として参画～

泉南市（市長：山本優真）は、令和６年７月１日、国立大学法人神戸大学（学長：藤澤正人）、光オンデマンドケミカル株式会社（代表取締役 CEO：津田明彦）、株式会社ヴァイオス（代表取締役社長：吉村英樹）とともに、四者による共同研究契約を締結し、「漂着海藻やバイオ由来産業廃棄物のアップサイクルに向けた光ものづくり」に関する研究を開始しましたのでお知らせします。また本研究においては、総合的な調整役として株式会社池田泉州銀行（代表取締役頭取兼 CEO：阪口広一）にもご参画いただき、産学官金の連携による実効性の高いプロジェクト運営を図ってまいります。

【研究の背景】

泉南市では、令和６年７月に５年ぶりとなる「タルイサザンビーチ」の海水浴場を再開しました。関西国際空港を望むこの人工海浜は、大阪府内でも人気の高いビーチであり、昨年は 15,000 人を超える来場者を迎えました。

令和 2 年には、隣接する「泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）」が開業し、さらなる集客効果が期待されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、海水浴場の開設は一時中断を余儀なくされていました。

再開に向けた準備を進めていた昨年度の夏には、大量のアオサが砂浜に漂着し、海水浴や観光への深刻な影響が生じました。アオサの腐敗による悪臭も、観光拠点としての価値を損なう要因となっています。

これまで回収されたアオサの一部は、乾燥・焼却処理が行われてきましたが、塩分や砂を多く含むため、焼却炉の劣化を招くなどの課題があり、より持続可能な処理方法の確立が求められています。

こうした背景を踏まえ、アオサを廃棄物ではなく資源と捉え、循環的に活用するモデルの構築が急務となっており、このたび本共同研究を開始する運びとなりました。

～7 月 14 日にはタルイサザンビーチにてアオサ採取を実施～

令和７年７月 14 日（月）、泉南ロングパーク内「タルイサザンビーチ」にてアオサの採取を実施し、研究と実証活動を進めてまいります。

【研究の概要】

- **研究期間**：令和７年７月１日 ～ 令和８年３月31日

- **研究題目**：漂着海藻やバイオ由来産業廃棄物のアップサイクルに向けた光ものづくり

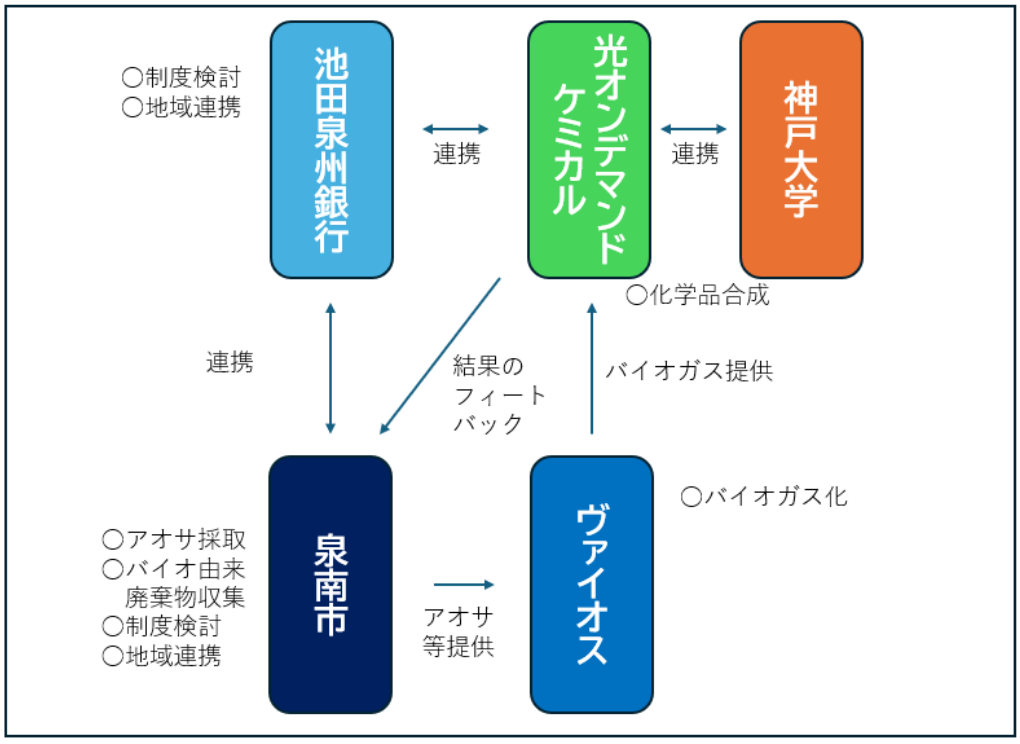
- **研究内容**：
  1. アオサなどのバイオガス化：株式会社ヴァイオス担当
  2. バイオメタンの光化学反応による有用化学品合成：光オンデマンドケミカル㈱・神戸大学（研究者：津田明彦准教授）担当
  3. 社会実装に向けた実証、制度検討、地域連携：池田泉州銀行・泉南市担当

【連携の特徴】

1. 大学の先端研究技術と企業の技術応用力、行政の現場知とフィールドを活かした四者連携
2. 「海洋ごみ」や「未利用バイオ資源」の有効活用により、ゼロエミッション型の地域資源循環モデルを検証
3. 将来的には、研究成果を活かした地域内資源循環や、全国への展開も視野に入れています

【今後の展望】

本研究で得られた成果は知的財産として整理・保護し、実用化・事業化に向けて推進します。泉南市としては、廃棄物利活用による環境負荷軽減、焼却処理の合理化による施設維持、地域経済の新たな価値創出を目指し、持続可能な循環型社会の形成に貢献してまいります。



共同研究における役割分担のイメージ

【本件に関する連絡先】
大阪府泉南市　成長戦略室　連携戦略課　担当：西本、藤原、角谷
TEL:072-447-8816　Mail:renkei@city.sennan.lg.jp